

ボランティア OSAKA



第10号

'97 / SUMMER

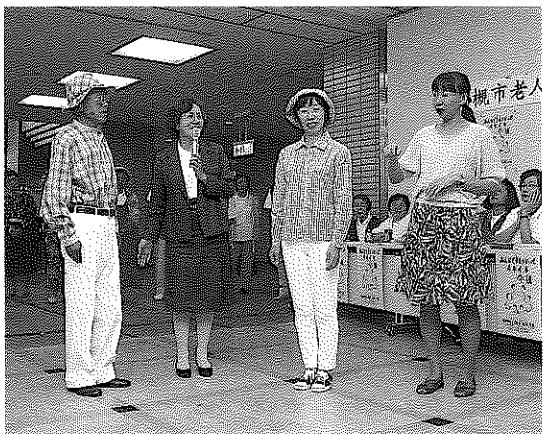
●発行●
(福)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティアセンター

特集

大きくはばたけ NPO

台頭する第3セクターとNPO法案

'97たがつきボランティアフェスティバル 「おしゃれファッションショーンショーン」



素敵なファッショニ身をまとえば、心もウキウキ、ルンルン気分

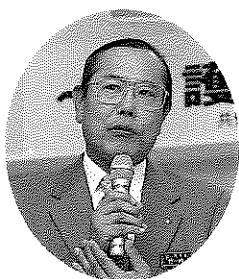
7月18日、高槻市の市立生涯学習センター展示ホールにおいて、「'97たがつきボランティアフェスティバル」が開催されました。

第一部は講演会で、秋の国会での成立が予定されている「公的介護保険」について、関日学園の日垣良太さんが詳しく解説。昼食・休憩のあとは、高槻市役所に勤務する木谷悦子さんによる「クロマチックハーモニカ」が行われました。国際ハーモニカチャンピオンシップなど、各種の競技会での入賞経験もあるという彼女の演奏に来場者の皆さんもうつとり。

続いて、この日のメイン・イベント「おしゃれファッションショーンショーン」が華やかに開催されました。これは障害者や高齢者のみなさんにも素敵なおしゃれを楽しんでもらおうと、高槻市ボランティア連絡協議会や衣服制作ボランティア「数珠玉の会」の皆さんの企画・協力によるもので、にわかモデルさんが



クロマチックハーモニカで美しい音色を奏でる木谷悦子さん



来賓としてご挨拶いただいた竹内保福祉事務所長さん



カラフルな車椅子用レインコート。
これで雨の日もバッチリ



パリアフリーをコンセプトにした衣装に身をまといつ々に登場。会場は大きく盛り上りました。中でも高齢者のためのカラフルなペアルック、車椅子利用者のためのレインコート、同じく純白のウエディングドレスなどには大きな拍手が起り、ムードも最高潮。200人近い来場者からも思わず「きれい！」と感嘆の声が上がりました。

「モデルさんの中には91歳の男性もいらっしゃいましたが、皆さん快く協力してくださり、お陰でイベントも大成功。この日の催しをきっかけに、今では障害者の皆さんにも参加していただき、より使い勝手のいい、利用者に喜んでいただけるパリアフリー・デザインの研究・制作を進めていくんですよ」と高槻市ボランティアセンターの矢形律子さん。高槻市ボランティア連絡協議会や「数珠玉の会」の皆さん、高齢者や障害者と一緒になった今後の活動に、大きなエールを送りたいと思います。

特

集

大きくはばたけ NPO(民間非営利組織)

~台頭する第3セクターとNPO法案~

ボランティア活動や企業のフィランソロジー（社会貢献活動）に関する言葉が注目を集めています。NPOとはノン・プロフィット・オーガニゼーションの略で、直訳すれば「非・営利・組織」。民間のボランティア団体やさまざまな市民活動団体を指し、6月の国会では、こうしたNPO諸団体の法人格取得を容易にし、その存在と活動を社会的にバックアップするための「NPO法案」が衆議院を通過しました。通過したのは与党・民主党が共同提出した「市民活動促進法案」ですが、衆院内閣委員会では他に新進、共産両党の対案もかけられ、議論は大いに白熱したところです。

各党案を比べると、あるところでは大きく、あるところでは微妙に違つてしまふものの、しかしづれも、NPOの存在がこれから私たちの社会に不可欠であり、これまであまり日の当たらなかった市民による自発的な公益活動が、行政、企業につぐ第3のセクター（sector=部門）としてクローズアップされなければならない…という認識では一致しているようです。

このように、法制度の整備が進み、近年、メディアにも盛んに登場するようになったNPO。そこで今号の特集ではもう一度基本にもどり、NPOとはいったい何なのか、みなさんといっしょに考えてみたいと思います。

**市民団体の交流拠点、
サポートセンターとして
設立された「大阪NPOセンター」**



大阪NPOセンター
事務局長 真嶋克成さん

わが国では、NPOよりもNGO（非政府団体）の言葉が早くから使われており、私は長年、大阪YMCアで国際交流などのNGO活動に従事してきました。もちろん、NPOもNGOも、政府や企業ではできない、しかし社会が必要とするさまざまな活動を先駆的に展開していく点ではまったく同じで、昨年の11月には、大阪を中心活動を展開するNPO・NGOが集まって「大阪NPOセンター」が設立されました。

大阪でもいま、数多くの市民団体が実に多彩な活動を展開しています。しかしうち多くの団体はまだ小さくて弱い存在。組織運営のノウハウも持たず、資金的にも苦労しているのが実情です。大阪NPOセンターは、そうしたNPO・NGOの交流拠点、サポートセンターとして機能していくことを目指してスタートしましたが、同時に、人・まち・地球を思いやる心を大切に育むために、各NPOに加えて、産・官・学が有効に連携できるような活動を積極的に展開していきます。事業は「情報・シンクタンク事業」、「マネジメントサポート事業」、「ソーシャルリレーション事業」などに大別されますが、多くの市民団体・個人の参加をぜひお願いしたいですね。

**「社会のおまけ」ではなく、
不可欠な「社会基盤」として**

NPOとはもともと米国で生まれた概念ですが、そのベースには「政府や企業ではできない社会問題の解決を市民が担う」という考え方があり、私たちは、このボイントをきつちり押さえておく必要があるでしょう。

戦後の50年間、日本は、行政という第1セクターと、企業という第2セクターとの「抜群の連携」により、ここまで経済大国にのし上がってきました。しかしその

システムも、ここにきて大きな制度疲労を起こし、多様化する社会的課題に、これまでのように十分には対応しきれなくなっています。つまり多様化・複雑化する社会的課題に、行政や企業とともに、これらに次ぐ第3のセクターであるNPOもまた取り組むべき、担うべき、またそれがふさわしい：と多くの人たちが考え始めたのが今日のわが国の状況、と言つていいかも知れません。

そんな考え方方が一気に盛り上がったのが、先の阪神・淡路大震災でのボランティアの活躍であつたことは論を待ちません。すなわち、本来的に公平性・画一性の原則から自由ではない行政セクター、利益追求を第一義的目的とする企業セクターにはできないこと（できにくいこと）を、現地にかけつけた多くのボランティア団体が、自発性・先駆性・組織力・独立性・機動力、そして公益性を發揮して「行政の苦手な領域」「企業には不可能な領域」で大活躍をしました。そして私たちはあらためて、こうしたボランティア団体の存在と役割が「社会のシステムとして」必要ではないのかと考えるようになつたと言えます。

言い換えれば、NPOの存在と活動を、これまでのようになじみづく協議会」と「まちづくり研究会」を市民が立ち上げ、行政との連携と役割分担により「まちづくり活動」（＝仕組みづくり・施設づくり・仕事づくり）を進めています。

行政の「管理から支援」への転換を実現するため、豊中市は行政組織を立ち上げていますが、今日的な流れの中で「まちづくり支援」というスタンスをとる組織が行政内にあり続けることにもいささか戸惑いがあります。

行政も市民組織も自らの組織を「Non(Not) Perfect Organization」と自覚し、活動を通じて相互に成長していくことを認めあう度量と努力が必要でしょう。

**NPOも行政も
オーガニゼーション**



豊中市役所
まちづくり支援室
芦田英機さん

組織性や継続性

があつてこそNPO



社団法人・
大阪自然環境保全協会
理事 長井美知夫さん

社団法人・大阪自然環境保全協会は、身近な自然を愛し、これを守り育てたいと願う市民が集まり、運営している自然保護団体。76年に設立され、さまざまな調査研究・提言・学習・市民運動を続けてきました。そうした活動の中の一つが「大阪シニア自然大学」で、これはシニアの方々が楽しみながら自然を学び、またその成果で多彩な社会貢献活動を繰り広げています。

シニア自然大学は、地域社会から自然関係の行事のリーダー派遣の要請が強まる中で開講したものです。考えてみればそれだけ、私たちNPOの活動を社会が必要とする時代になってきた、とも言えるでしょう。しかし社会的役割が高まれば高まるほど、その責任も大きくなります。そこでは、組織性や継続性が求められ、その意味でも「善意」にプラス、活動体としての戦略や戦術も必要にならなくてくると思うのです。私はそのあたりが、ボランティア団体とNPOとの違いだと考えていました。在宅介護の分野でも、介護保険でいうサービス供給主体になるためには、団体としての組織性や継続性が要る。ボランティアもNPOも、いよいよ、その「質」が問われる時代になってきた、と言えるのではないでしょか。

正式に組織されていること…、 自己統治能力を有していること…、

さて、そんなNPOをもう少し分析していきましょう。言葉の意味からすれば、「営利を目的としない民間の団体」はすべてNPOですから、PTAも、野球のクラブチームも、学校の同窓会も、もっと言えば、政党も、政府系特殊法人も、町内会も老人クラブも本来はNPOです。現にアメリカでは、ハーバード大学やメトロポリタン美術館さらには町の小さな青少年団体まで含まれて、そのまま日本に当てはめれば、慶應大学や早稲田大学、

せておくのではなく、民間公益活動がそこに割って入り、社会に必要なさまざまなサービスや財の提供を、NPOもまた担っていくという新しいパラダイム（枠組）を構築する。そんな考え方方が、いまこの国に、着実に、確実に広まりつつあると言えるでしょう。

最近では、社会の新しいパラダイムをめぐる市民集会が、全国各地で開催されるようになってきた（写真は昨年、神戸で開かれた「市民活動制度連絡会公開フォーラム」）



社会に果たすNPOの役割について講演するカレル・ヴァン・ウォルフレン氏



NPO政策研究所
代表幹事
木原勝彬さん

NPO政策の研究をめざして

この5月30日に設立したNPO政策研究所は、NPOやNPOセクター発展・強化のためのNPOに関する政策の研究およびNPO活動と連動する公共政策の研究と実現を目的としています。

NPO法案成立の公算が高く成りつありますが、法制化の次のテーマは、寄付金税制の改革とともに、地域の現場レベルにおけるNPOと行政（地方自治体）との協働関係構築ということになるでしょう。

協働とは、「行政とNPOとの双方の共通目的を達成するために、お互いの立場を尊重した対等の関係で共同事業を行い、それを通じてお互いの組織や活動内容の刷新・向上をはかるための行動原理」と考えています。

研究所ではNPO政策を、NPO活動に連動する公共政策と位置づけ、協働をキーワードに「コミュニティ総合政策研究—コミュニティ再生を目的としたNPO政策・コミュニティ産業政策と、それらに連動する自治体改革のあり方」、「地方行政改革とNPO」等の研究事業を開始しつつあります。『コミュニティ総合政策研究』では、生活基礎単位であるコミュニティでの住環境の向上、地域福祉の推進、商業の活性化、環境保全等の諸政策が相互に連動する総合的なコミュニティ政策の研究を、NPOと行政との協働で実施したいと考えています。

「横につながる」との大切さを実感



大阪府市町村
ボランティア連絡会
会長 矢形 律子さん

草の根的な活動を、日常生活の一部として自然体で継続してきた無償のボランティア活動。それがいま、NPOという、セクターを意識した市民活動団体と同じ土俵の上で「市民活動」として総称されるようになりました。無償のボランティア活動に身をおく者として、いざかの戸惑いはありますが、しかし新しい市民社会を構築していくために、それその役割を認識しつつ、横につながることの意義を感じています。

NPO法案について言えば、多くの市民活動団体が法人格を得ることで、行政や企業とのパートナーシップがより密度の濃いものになっていくことを期待しています。同時に、社会福協議会という大きな傘の下で活動する私たちにとっても、自律的な組織運営や活動内容の充実などを図るチャンスのとき。NPOが注目される時代とは、組織の「質」と「力量」が本格的に問われる時代だと思っています。

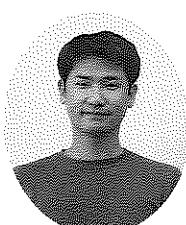
このように、はつきりとした定義のないままに議論が進み、注目を集めているNPOですが、現在、NPOの定義として国際的にもっとも標準化されたものとして「ジョンズホーリー・セクター・国際比較プロジェクト」によるものがあります。そこでは以下の項目を満たすことが必要とされています。

私たちにもできる福祉を目指してみよう！それが「あいのカエル」の始まりでした。しかし、当初たくさんいた中心メンバーも今は4人です。みんな自分たちの目標を理解すればするほど、日々の気持ちが情熱に変わり、障害ということについて少しでも多くの人たちに伝えたいという思いが募り、私たちなりに約3年活動してきました。

しかし、現状では私たちのような形態の団体は活動自体を維持していくのがとても難しいです。財團などからの助成、一般からの寄付、自己資金によってどうにか活動を維持していくても、助成の申請が通らなければすぐに対策を考えなければいけません。また企業などに協力をお願いしても「法人ではないのですね」の言葉が帰ってくることとあたびです。

「いいだぶんみなさんは、「何もそこまでして活動することないのに？」と思われるかもしれません。市民活動は自分の生活に余裕のある人が初めてできることがあります。しかし、私はこの活動を通して関わる多くの人たちに

未来を創造する大切なことを 伝え続けていくために



福祉団体 あいのカエル
坪田建一さん



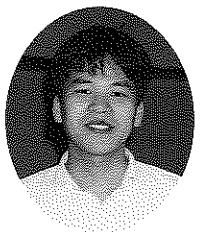
今年の3月23日、大阪で開かれた「NPO法案・国会議員との緊急市民集会」

①正式に組織されていること (Formal)。②民間である (Private)。③利益配分をしないこと (Non-profit-distributing)。④自己統治能力を有していること (Self-governing)。⑤自発的であること (Voluntary) などです。そしてNPO法案とは、こうした団体の法人格取得を容易にするなどにより、その存在と活動を社会的にパックアップしていくものに他なりません。

こうした社会の動きを反映して、6月7日と8日の2日間、横浜市で『NPOフォーラム97 inかながわ』と

NPO支援

「信頼関係」が基本



市民活動情報センター
代表 今瀬政司さん

日本において、本当の意味でのNPO支援センターができるのは、まだ10年はかかるかもしれません。NPOとは何か、NPO支援とはどうあるべきかを常に問い合わせながら、その社会的位置づけを明確にしていくことが重要だと思われます。

日本において、本当の意味でのNPO支援センターができるのは、まだ10年はかかるかもしれません。NPOとは何か、NPO支援とはどうあるべきかを常に問い合わせながら、NPO支援センター設立委員会などで、NPOのお手伝いをしています。その経験を通じてもっと大切だと感じるのは、NPOという組織のお手伝いの基本も、そこに介在する「人と人との信頼関係」だと思います。そして、お手伝いは個別団体の現場をベースとしなければなりません。各団体の特性・事情にあわせ深く親密な交流を続けることで、はじめてお手伝い、支援を行つていて見えるのではないかでしょうか。無論、各NPO自身も支援を受けて当たり前、といった姿勢からの脱却も必要となるでしょう。

わたしも、市民活動情報センター、大阪NPOセンター、市民活動推進センター設立委員会などで、NPOのお手伝いをしています。その経験を通じてもっと大切だと感じるには、NPOという組織のお手伝いの基本も、NPOといふ組織の「人と人との信頼関係」だと感じています。そして、お手伝いは個別団体の現場をベースとしなければなりません。各団体の特性・事情にあわせ深く親密な交流を続けることで、はじめてお手伝い、支援を行つていて見えるのではないかでしょうか。無論、各NPO自身も支援を受けて当たり前、といった姿勢からの脱却も必要となるでしょう。

昨年あたりから、NPO、行政、企業、学術機関等を母体にしたNPO支援センター設立の動きが、各地で見られるようになってきました。これまでのボランティア・NPO支援型ではなく、組織・団体支援型であることです。また単なるゆるやかなネットワーク型ではなく、専門家集団型・センター的業務局存在型もあります。

NPO らんだむ データ

大阪府で活動している非営利団体は4000以上。そのうち法人格をもたない任意団体は過半数を超えていました(図1)。平成6年の「ボランティアグループ実態調査」では8割が任意団体との数字もあがっていました。

多くの任意団体は一般市民、行政、企業の信用を得、援助を受けるために法人格を必要としています(図2)。しかし現行ではほとんどの任意団体にとって法人格の取得は困難です(図3)。NPOが広く市民に認知され、社会の第3セクターとして機能していくためには、今回のNPO法案が重要な意味をもっていることが、大阪府の調査からも見えてきます。

図1
有無
非営利団体の法人格の

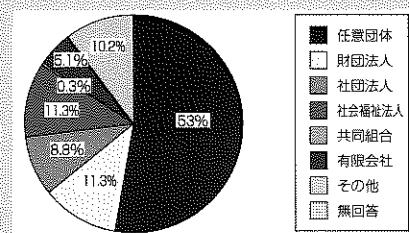


図2
法人格必要性の理由

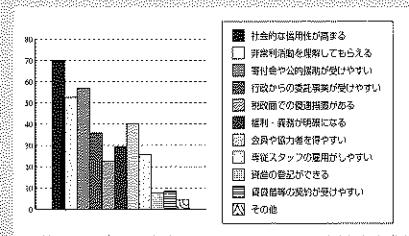
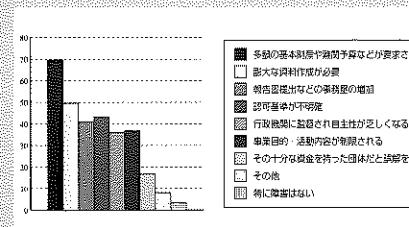


図3
法人格取得の障害



(いずれも平成8年市民活動団体モデル調査報告書より)

いうフォーラムが開催され、延べ、約1500名のNPO活動家らが全国から「地域を超えて、分野を超えて」集まりました。ある意味では歴史的集会といつてもよく、大阪から多くのNPO活動家が参加し、今後の「セクターとしての連携」について活発な議論が展開されました。

いま、わが国のNPOセクターの活動(総支出規模)がGDPに占める割合は3.2%、雇用数は144万人で、総雇用の2.5%を占めるといわれていますが、これらの数字が、今後、増えていくだろうことは、まず間違いのないところ。数多くのボランティア団体が、まさにNPOセクターとして行政や企業に亘して重要な社会基盤を担っていくかどうか:社会変革の実験は、いよいよこれからが本番です。

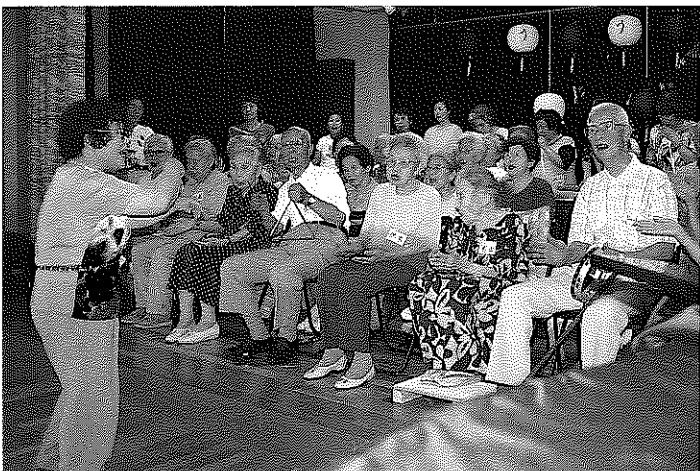
そんな中で生活に不自由があつても、私はなんとか自分らしく生きているこの仕事と仲間が好きでたまりません。今回のNPO法案の規定にある文化・人権ほかの活動にしても未来を創造する時、とても大切なことばかりです。なぜなら、市民レベルでの活動の中には、日常生活に対するあふれ出る気持ちを活動し続けるという形で伝え続ける人たちがたくさんいるのだから…。すべては今を生きる人たちと次の時代を生きる子どもたちのために。今回の法案の成立には、日々人々に対するあふれ出る気持ちを祈っています。

支えられ人として育てていただきました。また傲慢かもしれないが、同じ時代を生きる人々に伝えたい大切なことが私の心にはたくさんあります。

地域にこだます、お年寄りの大合唱・大合奏

地域リハビリ事業を展開する、

羽曳野市「ゆうゆうクラブ」を支える会



ボランティアさんの指揮で、お年寄りの皆さんが大合唱

「月ああ玉杯に、花うけて」と
92歳のおじいちゃんが力いっぱいに
歌えば、「月叱くられても」と、
3人の年齢を合わせれば約250歳
という、おばあちゃんとトリオのコー^{ラス}も飛び出す。詩吟あり、民謡あり、そしてクライマックスは全員の合唱と演奏。まさに「お年寄りの大合唱

芸会」といった楽しい催しが7月8日、羽曳野市の羽曳が丘コミュニティセンターで開催されました。

地域のお年寄りに、リハビリと対人交流を通じて「健康づくり」「生きがいづくり」に取り組んでもらう「羽曳が丘ゆうゆうクラブ」の、この日は七夕祭り。晴れた舞台に立つたお年寄りたちは、それぞれ日頃の練習の成果を存分に發揮し、学芸会は大いに盛り上りました。

「皆さんにこんなに楽しんでいた

だいて私たちも大感激。初めての試みで準備も大変でしたが、お年寄りの楽しそうないきいきとした表情を拝見して、苦労もふっ飛びました」と語ってくれたのは、ゆうゆうクラブを支える会の会長・原田恵美子さん。

「羽曳が丘ゆうゆうクラブ」は平成8年の4月、地域の住民が支える自主的なボランティア活動としてスタート。家に閉じこもりがちな高齢者が、心のふれあいと身体の健康づくりをしながら、寝たきりや痴呆を予防していくのが目的です。藤井寺保健所および羽曳野市では平成5年



より「リハビリテーション推進モデル事業」を実施してきましたが、その事業を引き継ぐ形でボランティア組織「ゆうゆうクラブを支える会」が発足。スタートにあたっては、民生委員も務める原田さんらが10年前から行ってきた「地域の高齢者実態調査」なども大いに役立ったといいます。

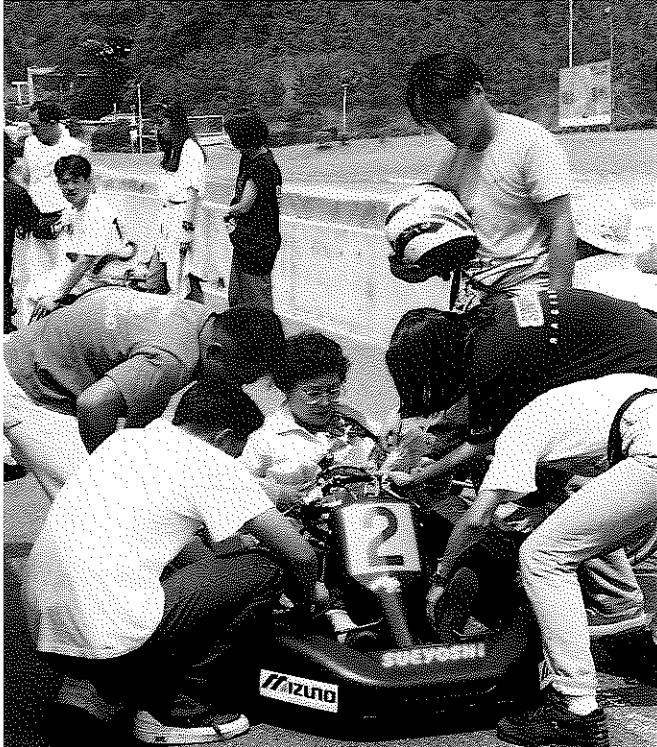
「集い」は毎週火曜日。プログラムは午前中がリハビリテーションで、午後が「ふれあいタイム」。リハビリについては毎回、四天王寺悲田院の言語療法士や理学療法士さんが担当してくれますが、午後の「ふれあいタイム」は、原田さんらボランティアの手づくりプログラム。これまで、ゲーム、工作、雑祭り、お花見などを行つてきましたが、今回はお年寄りからのリクエストもあって、初めての「学芸会」の実施となりました。

ゆうゆうクラブに集うお年寄りは、現在40名。そしてその家族と約40名のボランティアが、支える会のメンバーとなつて活動しています。ボランティアの大半は子育てを卒業した女性ですが、中にはピアノが弾ける人、看護婦の経験者、フラワーアレジメントの先生、お菓子づくりや折り紙の名人など多彩な特技を持つ人もおり、「それぞれの特技を活かして、ふれあいタイムのメニューを考えている」そうです。なかには、運転ボランティアの男性もいて、歩行が困難なお年寄りの送迎をマイカーで担当。まさに「地域ぐるみで



お年寄りを支えています。「いろんな人が、それとのできることで参加してくださっている。そして自分たちも大いに楽しんでいる。それがまた、長続きの秘訣でもあると思うんです。ゆうゆうクラブの「ゆう」は友であり、遊でもあります。悠然である。私たちは一人暮らしの身貴族と呼んでいますが、そんな独身貴族のお年寄りが、「懶々」と「友」と「遊ぶ」場が、ゆうゆうクラブ。でも、まだまだボランティアさんが足りないのが実情。地域のよろ多くの人に、私たちの活動に参加してほしいですね」とも原田さん。

地域の「ミニ・デイケア事業」とも言える「ゆうゆうクラブを支える会」の活動。ますますの発展を期待したいものです。



もつと風を感じたい！

手動式レーシングカート試乗会 開催

福祉団体「あいのカエル」

開催

女性ドライバー登場。乗車するのもみんなの力が必要です。

8月3日、スポーツランド生駒にて「風を感じるサマーフェスティバル'97レーシングカート レボリューション」が開催されました。主催は

福祉団体「あいのカエル」。車いすダンスやレーシングカートなどのスポーツや娯楽を通じて、もっと自然に福祉とつきあえるようにと、さまざまな活動を展開しているグループです。

肢体不自由者も運転できる手動式レーシングカートは「あいのカエル」がカートショッピングセンター場の協力を得ながら、昨年2月に日本で初めて完成させました。現在、車いす肢体不自由者が中心となってカートクラブを結成し、毎週土曜日に走行会を行っています。

今回のイベントはもっと多くの身障者にもレーシングカートのおもしろさを知つてもらおうと企画されたもの。

「ふだん自動車に乗っていますが、

まったく別世界です。車高が低く風を感じるので、もうドキドキでした」と、試乗した身障者の人たちはみんな顔を紅潮させて語ってくれます。降りたとたんにまた乗つてみたいとの声も聞こえていました。

カートのおもしろさはもちろんですが、「こんな楽しみがあるなんて夢にも思つてなかつたです。乗つている時は、身障者であることを忘れてしまつた」と、新しいことへチャレンジができた喜びが表情にあふれています。

身障者、健常者あわせて30人近くがレーシングカートに挑戦。カートクラブやゲストレーサーのデモンストレーションも行われ、サークルには1日中、エンジ音と歓声が鳴り響いていました。当日はレーシングカートのほかに、「ラジコンカーレース」や「ミニ四駆レース」も開催。にぎやかな屋台やゲームコーナーがサークル場前の広場を埋め、



華麗な(?)コーナリング、気分はF1レーサー



大人も子どもも身障者も健常者も一緒に楽しめるフェスティバルとなりました。ただ、身障者がカートに乗れるのは全国でも「スポーツランド生駒」だけ。まだレース走行も許されていません。障害があるために制限が多いのも事実です。「あいのカエル」では今回のイベントを足掛かりに手動式レーシングカートを普及させ、もっと自由に楽しくカート走行をできることを目指しています。興味がある方はぜひ連絡してください。

「あいのカエル」連絡先
☎ 06-(366) 6137

第9回 チャリティー・クラシック・コンサート 音楽の捧げもの

福祉に理解のある一流の演奏家とコーラスグループの協力を得て、クラシック・コンサートを開催します。当団の収益は青少年の心の健全育成のための財源の一助となります。



日 時／9月13日(土)

午後0時開場 午後1時開演

場 所／ザ・シンフォニーホール
(JR環状線・阪神「福島」駅より北へ徒歩5分)

賛助会費／3000円

出 演／久保田真矢(パイプオルガン)

小池 輝美(ソプラノ)
田中 由也(バリトン)

近藤 生美(ピアノ伴奏)
久保田 巧(ヴァイオリン)

生野女声合唱団
清教学園P.T.A.聖歌隊

富田林市女声コーラス
羽曳が丘メモリアルエコー

主 催／大阪府社会福祉協議会
問い合わせ先／大阪府社会福祉協議会

大阪府ボランティアセンター

主 催／大阪府社会福祉協議会
問い合わせ先／大阪府社会福祉協議会

主 催／大阪府社会福祉協議会
問い合わせ先／大阪府社会福祉協議会

主 催／大阪府社会福祉協議会
問い合わせ先／大阪府社会福祉協議会

第16回 東大阪ふれあい広場

ボランティアグループ、福祉施設、福祉団体が中心となって「東大阪ふれあい広場」を開催します。老人や障害者と交流し、ボランティア活動を知る絶好のチャンス。ぜひご参加ください。

日 時／10月19日(日)

午前10時～午後3時

場 所／東大阪市立総合福祉センター

催し物／福祉展、作品展、相談コーナー

1、物品販売(バザー)、模擬店、演芸コーナー、ふれあいコーナー(折り紙・割り箸鉄砲教室)、体験コーナー(手話、手芸、ワープロ)

主 催／第6回全国ボランティアフェスティバル実行委員会

主 催／東大阪ふれあい広場実行委員会

主 催／東大阪市社会協ボランティアセンター

主 催／東大阪市社会協ボランティアセンター

主 催／東大阪市社会協ボランティアセンター

主 催／東大阪市社会協ボランティアセンター

第6回 全国ボランティアフェスティバルやまぐち つたえたい ボランティアのハート みんなちがつて みんなない

第6回 全国ボランティアフェスティバルやまぐち

ボランティア活動への理解と参加をアピールする祭典「全国ボランティアフェスティバル」が山口県で開催されます。今年のテーマ「つたえたいボランティアのハート みんなちがつてみんなない」は山口出身の童謡詩人・

金子みすゞの詩集「私と小鳥と鈴」との一つフレーズ。個性を認めあいながら、互いの人格を尊重することを基調とした、ふれあい、優しさ、学びあいのボランティア活動を呼びかけます。

フェスティバルは開会式典に続き、シンポジウム、テーマ別集い、ボランティアプラザなど多彩なプログラムが予定されています。新しい発見と出会いを求めて、みんなで誘い合って参加しませんか。



●オープニングイベント・開会式典

●シンポジウム
「みんなちがつて みんなない」をテーマに映像を交えながら、活動の楽しさ、豊かさ、そして住民が手作りで街をつなげていく夢を語り合います。

●テーマ別集い
「違う文化からの捨てられない文化」「おもちゃの図書館活動」「文化伝承ボランティア活動」「パリフリーのすすめ」など、ボランティア活動をもとにした30にものぼる幅広いテーマについて、交流します。

●ボランティアアート

「ほほえみボケタタタ」
ボランティア活動の紹介と各種展示
「天までどけハーネスハイ」
サークル活動、伝統芸能、音楽などステージでのショー

「わくわく・ドキドキふれあい広場」
ボランティア、社会福祉協議会、老人クラブ、施設などによるバザー

●協賛イベント
「山口県ボランティア振興財團創立20周年記念イベント」「山口市福祉の市」「タケのつむぎ」「市町村協賛イベント」など、交流を目的としたさまざまなイベントが用意されています。

大阪ボランティア情報ネットワーク

来年1月12日にスタート！

7月15日、大阪ボランティア情報ネットワーク運営協議会が発足しました。

同協議会は「大阪ボランティア情報ネットワーク」を運営する中心組織。社会福祉をはじめ、自然環境、保健医療、青少年活動、国際交流、スポーツ、文化活動など、4000団体のボランティア募集情報を収集。情報サービス拠点でのパソコンを使ったボランティア情報検索システム、インターネットのホームページや大阪府のパソコン通信OINET、情報誌やミニコミ誌などで活動希望者に情報を提供します。

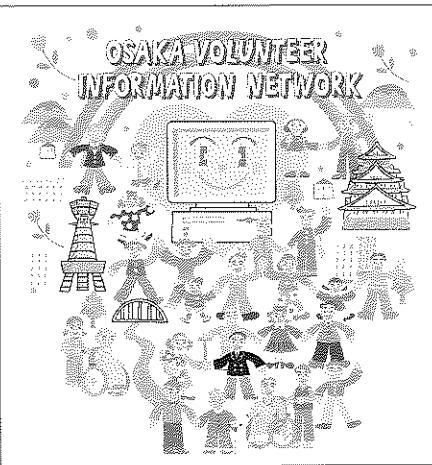
分にあつた活動に参加できるのかわからなかつた人たちも、情報ネットワークを利用すれば、学校や図書館など身近な場所で、気軽に情報が得られるようになります。

平成10年1月12日に情報ネットワークのスタート決定！ボランティア活動のコーディネイト役として大きな期待が寄せられています。ネットワークには、まず、ボランティアを求める団体・施設の皆さんとの登録が必要。気軽に大阪府ボランティアセンターまでご連絡ください。

●問い合わせ先

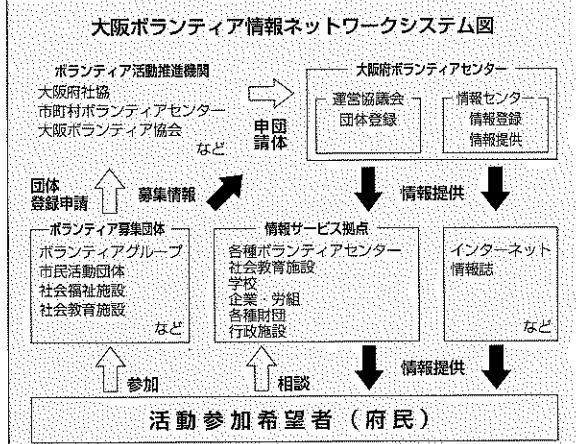
大阪府ボランティアセンター

☎ 06(762)9631



大阪ボランティア情報ネットワーク運営協議会構成団体

大阪NPOセンター
社団法人 大阪自然環境保全協会
財団法人 大阪府国際交流財団
大阪府市町村ボランティア連絡会
社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
財団法人 大阪府青少年活動財団
社会福祉法人 大阪府総合福祉協会
財団法人 大阪府地域福祉推進財団
大阪府立女性総合センター
大阪府立青年の家
大阪府立文化情報センター
社会福祉法人 大阪ボランティア協会
財団法人 大阪みどりのトラスト協会
関西国際交流団体協議会
関西国際交流ボランティアネットワーク会議
財団法人 勤労者リフレッシュ事業振興財団
(勤労者ボランティアセンター・大阪相談コーナー)
日本赤十字社大阪府本部



大阪府市町村ボランティア連絡会
北摂ブロック交流会

あなたの“古い”を
デザインしよう

年齢や性別にとらわれずいきいきと活躍するボランティアが増えています。交流会でユニークで創造的なボランティア活動の輪を広げながら、あなたの身の将来の「生き方」や「古い」をデザインしてみませんか。

日 時 / 9月27日 (土)

午前10時30分～午後3時30分

会 場 / 高槻市総合センター

14階会議室

参 加 費 / 500円 (弁当代)

内 容 /

- 講演 八尾市老人福祉センター
「八老劇団脚本演出担当 浜田遵子さん
- ボランティア活動紹介

高齢社会をみすえた生きがいや地域を耕す創造的な活動を紹介してもらいます。

- パネル展示
ボランティア活動や各団体の作品を展示・紹介します。

主 催 /

大阪府市町村ボランティア連絡会
摂ブロック実行委員会
大阪府社会
福祉協議会ボランティアセンター
問い合わせ先
大阪府社会福祉協議会
ボランティアセンター
☎ 06(762)9631

「ふれ愛ぴっく大阪」プレイベント

ときめいて今 はばたいて未来 かがやきフェスティバル・イン・舞洲

日時：10月5日(日)

PM1:30～4:00

(AM11:00～12:00プレイベント実施)

場所：舞洲アリーナ

(大阪市此花区北港緑地2丁目)

●コンサート

特別ゲスト「タケカワユキヒデ」

ロックグループ「シャンテ」

吹田ろうあ太鼓「和龍耳」

●エキシビション

「感動・躍動 パラリンピック記録」

●イベント

「みんなでつくる舞洲アート」

みんなの絵をつなぎ合わせて大きな大きなクジラをつくろう

100名様を募集!!



応募方法

ハガキに郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、また「みんなでつくる舞洲アート」の参加の有無を明記して

〒535 大阪旭郵便局私書箱106号

「かがやきフェスティバル・イン・舞洲」係へ。

9月16日(火)消印有効。

応募者多数の場合は抽選。当選者には招待状の発送をもって代えさせていただきます。

お問い合わせは

「かがやきフェスティバル・イン・舞洲」実行委員会事務局

電話 06-377-7306 (土・日・祝日除くAM9:00～PM5:00)

*「みんなでつくる舞洲アート」に参加して頂く方々には別途参加要領等ご案内させていただきます。



イラスト：久保利恵

このイラストは、障害のある方の在宅就労を目指す「プロジェクトステーション」を通じて制作を依頼しました。

主催

「かがやきフェスティバル・イン・舞洲実行委員会」
(福)大阪府社会福祉協議会、(福)大阪市社会福祉協議会、
(福)大阪ボランティア協会(株)かんでんエルハート、関西電力(株)

後援

大阪府、大阪市、第33回全国身体障害者スポーツ大会実行委員会

協力

(財)たんぽぽの家